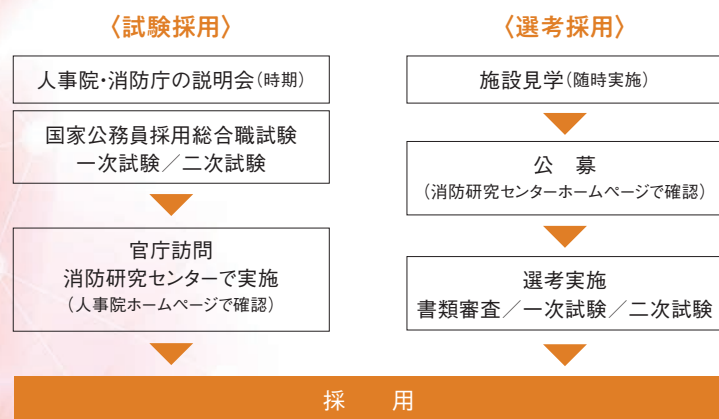


採用に関する情報

- 採用方法** 採用方法は、国家公務員採用総合職（院卒者試験及び大卒程度試験）合格者から採用します。
- また、修士課程以上の学位を有し、高度の研究業績を有する場合には選考による採用も実施しています。



▲消防研究センター採用情報
<https://nrifd.fdma.go.jp/recruit/index.html>



- 採用区分** ●国家公務員採用総合職試験のうち、次の試験区分に合格した者からの採用になります。
- 〈院卒者試験〉
デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境
- 〈大卒程度試験〉
デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境

- 勤務地** 〒182-8508
東京都調布市深大寺東町4-35-3 総務省消防庁消防大学校消防研究センター
※他府県には支所等はありません。

- 待遇等** [給 与] 研究職俸給表の適用を受ける国家公務員で、学歴、経歴等を勘案して決定
[勤務時間] 7時間45分/日（週38.75時間）
[休 暇] 週休2日（土・日）、年20日の年次休暇、特別休暇（夏季、忌引き等）、病欠休暇 等
[ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活の両立）支援制度] 育児休業制度 等

- 施設見学について**
研究内容の紹介、研究環境や施設の見学を随時実施しております。お気軽にお問い合わせください。

- 問合せ先** 消防研究センター 電話 0422-44-8331（代表） メール saiyou@fri.go.jp



総務省消防庁 消防研究センター
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3
TEL:0422-44-8331
<https://nrifd.fdma.go.jp/>

National Research Institute of Fire and Disaster
4-35-3 Jindaiji-higashi-machi, Chofu, Tokyo, 182-8508, JAPAN
TEL: +81-422-44-8331



2025年3月作成

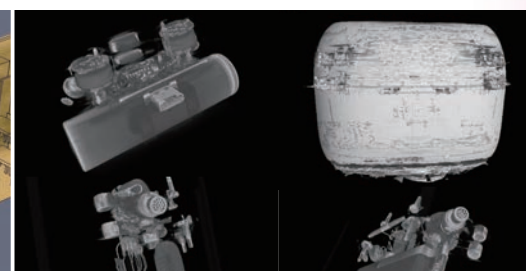
総務省 消防庁 消防研究センター

National Research Institute of Fire and Disaster

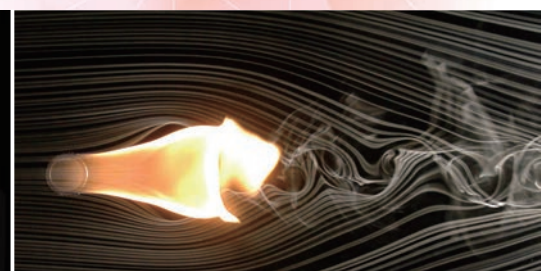
研究官採用案内



科学技術で火災予防
火災シミュレーション（CFDによる火災現象の解明）



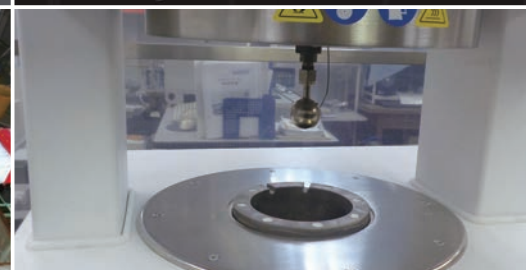
火災、危険物流出事故の原因調査
X線CT撮影装置で撮影した焼損物



火災に関する現象の解明
炎の風下に出来る渦の可視化



倉庫火災に対する消火手法の検討
泡消火の実験



化学物質の危険性把握
断熱型暴走反応熱量計による熱量や圧力の測定



貯液の流出事故の防止
地下タンクの内面コーティングの経年劣化調査



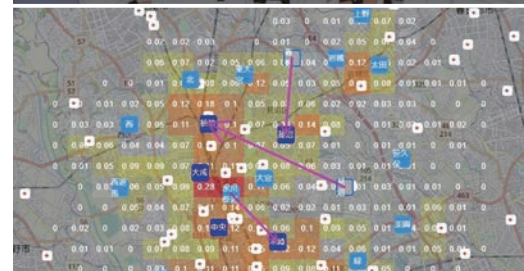
火災の進展を可視化し、原因を調査
市街地火災延焼シミュレーション



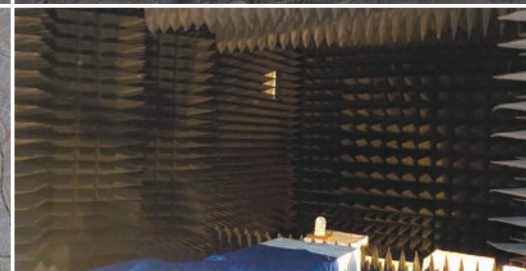
災害現場で消防隊員の安全を確保
土砂災害現場での技術支援



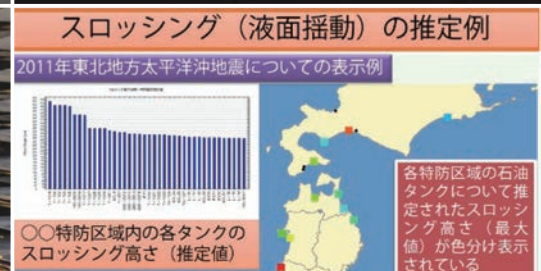
夜間における災害現場の情報収集を可能に
夜間ドローンレーザー実証試験



迅速な救急活動の実現のために
AIを活用した救急隊運用最適化



火災感知器などの動作の検証
電波暗室での実験



消防防災の技術研究を極めて、
社会の安全に直接貢献する研究官の仲間を募集中！

消防研究センター研究官の業務

消防防災の技術研究を行い、その成果を消防や社会に役立てます。



▲業務紹介動画

研究
開発

技術
支援

情報
発信



情報収集分析車

消防防災に関する基盤から応用にわたる**研究開発**を行います。

基本的に5か年の研究計画を進めています。災害の発生など緊急に研究を実施する必要がある場合は新たな研究開発を開始します。



熱分析装置



泡消火の実験

国際会議への参加をはじめ、学会、論文誌での**研究発表**を行います。

消防防災関係者などを対象とした会議での講演で、研究や調査で得られた知見を発表し、連携を構築します。



国際学会で最優秀論文賞(博士課程カテゴリ)を受賞



産業廃棄物中間処理場火災での消火の技術支援

専門知識や研究成果を活用し、**技術支援**を行います。

救助活動の安全確保、消火方法等の積極的な技術支援を行っています。また、火災原因、被害拡大要因等の原因調査も同行します。



災害対策本部への技術支援



火災原因調査の技術支援

研究分野の例

様々な分野出身の研究官が消防防災活動の現場を支援する研究開発を行っています。

火 災

- 火災検出、通信、消火等の消防用設備の研究
- 延焼拡大火災シミュレーションによる火災リスク分析
- 建物内の火災シミュレーション等による火災現象の解明



住環境における火災実験

危 険 物

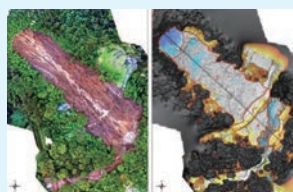
- バイオマス等の新エネルギー、化学物質の危険性解明
- 石油タンク等の腐食劣化の診断方法に関する研究
- 危険物火災の消火方法に関する研究



ゴミ処理設備の爆発再現実験

自 然 災 害

- ドローン等を活用した測量手法による斜面災害現場での救助活動
- 地震等の災害時の非常時通信のための情報通信技術開発
- 石油コンビナートの地震被害予測



ドローンの空撮情報の活用

新 技 術

- 消火等のロボットの開発
- AI等を活用した研究(救急隊の最適配置に関する研究等への活用)
- 蓄電設備、太陽光発電設備の安全等の社会情勢の変化を見据えた研究



ロボットの試作機

電気、機械、化学、情報、土木、建築等の幅広い分野の研究者を必要としています。

研究官インタビュー

安全と未来を守る、革新の研究と現場の知恵

昨年度までは技術研究部長として、研究計画や予算要求の取りまとめなど、組織の運営にも関わっていました。一方、研究者としては、研究だけでなく、時には災害や事故発生時には現場に派遣され、原因調査に携わることも多いです。こうした現場での経験が、研究の新たなヒントになることもあります。研究の方向性を決める時は、自らの興味や発案が元になる場合もありますし、行政的な必然性から方向性が決まってくることもあります。いずれの場合でも、消防法令の技術基準への反映、あるいは、消防隊員の活動に貢献できる研究が理想的です。将来起こり得る災害を未然に防止するために、社会の変化や技術の進歩に柔軟に対応できる研究官と共に仕事をしたいと考えています。



▼インタビュー動画

◆経 歴

平成 4年 4月	自治省消防庁消防研究所入庁
平成12年 4月	自治省消防庁危険物規制課 危険物判定係長
平成13年 1月	同 危険物判定係長 併任 危険物第一係長
平成14年 4月	独立行政法人消防研究所 主任研究官
平成21年 4月	総務省消防庁消防研究センター 火災災害調査部 原因調査室長
平成28年 4月	同 火災災害調査部長
令和 5年 4月	同 技術研究部長
令和 7年 4月	同 研究統括官



機械/タンク構造 研究統括官 西 晴樹

危険物施設(特に石油タンク)の構造強度や耐震性に関する研究に取り組んでいます。長周期地震動における浮き屋根の挙動を解明し、浮き屋根の耐震性の向上に貢献しました。現在は研究統括官として職務にあたっております。

革新的消火技術で安全を守り、未来の消防を創造

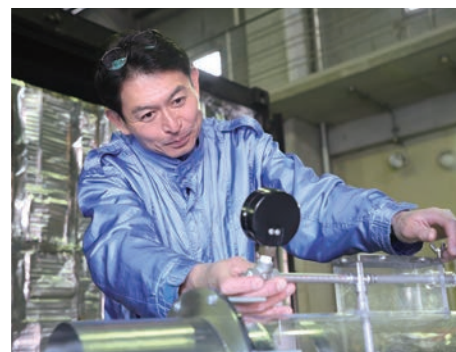
研究活動に加え、学会での活動や外部委員会への参加も積極的に行っており、全国の消防本部からの依頼で、研究に基づいた講義を実施することもあります。今年度は消防研究センターの5か年の次期研究計画の策定を担当し、センター全体の方向性を決定する重要な役割を果たしました。所内の研究活動と外部業務の両立は、時に困難な面もありますが、学会活動や委員会活動は自分の研究にとっても有益だと感じています。消防防災に関する研究は様々な専門分野が複合的に絡み合う分野が多く、自身の専門性だけでは解決できない課題が多いので、自身の専門性だけでなく色々な事に興味を持ち、柔軟に対応できる方と一緒に働きたいです。



▼インタビュー動画

◆年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
次期研究計画		計画検討の作業部会の発足	消防庁各課室への課題や施策等の聞き取り調査				各研究官からの研究課題の提案の取りまとめ	研究計画書(案)の取りまとめ		消防庁幹部レク、研究評価委員会への説明		
研究業務			設計製造及び実験準備 大規模区画を用いた水蒸気消火実験			予備実験					各実験データを整理、考察し、学会へ論文投稿	
			高発泡泡の放射熱による消泡量の検討				倉庫模型を用いた高温環境下における泡の流動展開実験					



機械/消火 室長／上席研究官 内藤 浩由

専門は燃焼工学で、現在は消火技術の研究に取り組んでいます。特に「泡」を用いたガンリン火災や建物火災に対する効率的な消火手法の研究開発を進めています。役職は上席研究官で、危険性物質研究室に所属しています。

先端技術で救助活動を支援、土砂災害対応の未来を切り拓く

研究活動においては、仮説通りの結果が得られたときにやりがいを感じます。特に現地調査では、未知の現象に遭遇することがあり、予想外の結果となることもありますが、それをどう解釈すれば良いのかを悩むことも面白いです。自然災害を扱う研究では、予測していない事象に直面することも多く、柔軟性が必要です。消防研究センターでは自分の専門外の研究者と意見交換をする刺激の機会が多く、異なる分野の知識を得ることができます。災害現場の消防隊員のサポートのため、幅広い技術を学びながら、現場に貢献できる研究を進めていきたいと考えています。自分の研究に軸を持ちながらも、柔軟に対応できる人と一緒に働きたいと思っています。



▼インタビュー動画

◆研究・業務への取り組み方

普段は研究室で事務作業や研究、論文執筆を行い、定期的に観測機器のメンテナンスも実施しています。土砂災害の現地調査や救助活動に関するヒアリング、ドローン運用試験など出張にもそこそこ頻度で行っています。非常勤講師としての大学の集中講義やドローン技術指導アドバイザーとしての講義、全国の消防局・消防本部から依頼を受けての土砂災害の講義なども行っています。また、災害派遣(災害の技術支援)は不定期ですが、平均して2年に1回程度で行っています。



理学/土砂 主任研究官 土志田 正二

専門は地形学で、土砂災害を研究対象としています。現在は、土砂災害現場で安全かつ迅速に救助活動を行うための研究を行っており、特にドローンを活用した空間情報の利活用に注力しています。役職は主任研究官で、消防庁消防・救急課ドローン技術指導アドバイザーも務めています。